

PAC 速報

放射光実験施設 運営部門 兵藤 一行
宇佐美徳子

放射光共同利用実験審査委員会（PF-PAC）が、10月2日（水）10:00-15:00に開催されました。PF-PACは、「放射光を用いて行う実験の申請課題について、採択の適否の審査を行うとともに、放射光を用いる研究計画に関する重要事項について審議するための委員会（物質構造科学研究所放射光共同利用実験審査委員会規程）」です。前回、7月開催の全体会議でPF-PAC委員長からの提案が了承され、今年度は4回の全体会議開催を予定しています。今回はその2回目の全体会議開催でした。

従来からPF-PACで議論してきた課題等を考慮しながらPFから検討提案をさせていただいた以下の5項目を含めて、今回、意見交換がなされました。これらの項目は、現在の実験課題審査等の制度に関して大学共同利用機関としての放射光実験施設の役割がより明確になるような制度の再構築という観点から提案をさせていただいたものです。これらの5項目を含めて、引き続き、PF-PAC、PF内部で意見交換をして、PF-UAとも連携しながら、各種システムの改造を含めて今後の具体的な対応を決めていく予定です。

【検討項目】

1. 分科会の最適化

課題：研究分野や研究方法の発展を考慮した最適な分科会設定を検討すること。

【分科会の設定】

<https://www2.kek.jp/imss/pf/use/proposal/>

2. 無償利用プログラムの整理と審査方法の最適化

課題：評点付与方法を含む審査方法の検討、所内スタッフ優先課題および留保課題を整理すること。

【評価基準】

https://www2.kek.jp/uskek/apply/pfpac_process.html

【所内スタッフ優先課題】

<https://www2.kek.jp/imss/pf/use/program/yusenbt.html>

【留保課題】

<https://www2.kek.jp/imss/pf/use/program/ryuhobt.html>

3. 複数分科課題の申請

課題：複数の手法を利用した実験課題申請がなされている。それぞれの手法に関して申請書への記述が十分になされていない場合もあり、審査の観点から一枚の申請書による実験課題申請か別の実験課題としての申請が望ましいのかに

関して検討すること。

【研究公募要項】

<https://www2.kek.jp/uskek/apply/pf.html>

4. イエローカード制度

課題：KEKへの出版論文登録を促進するために制度が設定され運用されてきたが、現在は出版論文登録に関して十分に周知されつつある。現在の制度運用を維持しながら評点の減点については、学術研究はすぐに成果が出なくても最終的に良い成果が上がることを期待しながら行うものである、という観点から再検討を行うこと。

【評価基準】

https://www2.kek.jp/uskek/apply/pfpac_process.html

5. 旅費支給基準

課題：旅費に関しても経費が削減されてきているなかで、どのような配分が望ましいのかについて検討を行うこと。

【意見交換】

1. 分科会の最適化

基本的に現在の分科会方式で良いと考えられる、小角散乱、X線イメージング、検出器開発など研究分野が混在している生命科学II分科会への対応は課題である、サイエンスを重視した評価とともに技術開発を目的とした課題への考慮も必要、分科会設定を申請者やレフリーにわかりやすく提示することは必要、などの意見が出された。

2. 無償利用プログラムの整理と審査方法の最適化

■ G型課題

レフリー審査、分科会審査とも現在の絶対評価と評点付与方法が望ましいと考えられる、評点基準の十分な周知が必要だ、などの意見が出された。評点基準を再設定して明確化し（学問点以外の評点の扱いをどのように考慮するのかを含む）、レフリー、申請者に周知することで現在の審査方式を継続する方向で検討を行うことになった。

■ P型課題（初心者型）

今後は評点方式ではなく採択・不採択の二択とする方向と設定して、チームライン担当者によるチームタイム配分に関する裁量や審査体制について、引き続き、検討を行うことになった。

■ PF課題（所内スタッフ優先課題および留保課題の整理）以下の3つのカテゴリーがPF-PAC委員長から提案された。

- ・ 施設戦略の推進（PF-S）：開発研究、共同研究、国家プロジェクトなど（PFスタッフを責任者とする現在のS2型相当課題の一部を含む）
- ・ 一般の利用推進（PF-G）：予備実験、故障対応など
- ・ 教育と人材育成（PF-T）：講習・実習、IMSS学生研究

など

上記提案に関して、基本的にこの方向で良いだろう、従来のS2型課題をPFからのPF内部課題に設定すると透明性や公平性に問題があるのではないか、コミュニティ全体へのメリットを考慮することも必要だろう、研究進展状況の情報開示は重要、などの意見が出された。

3. 複数分科課題の申請

現行制度を続けながら、分科会の最適化や評点付与方法の検討と連動して検討を続けることになった。また、申請書への記述方法について更なる情報周知も検討する。

4. イエローカード制度

現在の実験課題申請システムでのイエローカード対応の運用は継続したほうが良い、課題評点の減点は基本的にしない方向とするが分科会での裁量は残す、PF-PAC委員長から提案された過去10年間の採択課題の情報や論文出版に関する情報をレフリー審査や分科会審査時に開示することは有用だろう、などの意見が出された。

5. 旅費支給基準

- ・ 原則として、外部資金のある課題には旅費支給を辞退してもらおう。
- ・ 辞退した課題には、例えば評点の枠内でチームタイム配分の際に考慮するなどのインセンティブを検討する。
- ・ 辞退分は外部資金のない研究室の学生への支給に充てる。

上記のPF-PAC委員長提案は基本的に良い方向だろう、辞退分は各課題への2人目への支給として学生に割り当てることが良いだろう、インセンティブについては考慮の必要はないのではないかと、学生への支給については公表していくことが重要だろう（辞退により何件の旅費補助を実施できたかなど）、PFとして旅費支給に関する外部資金導入を検討する必要があるだろう、などの意見が出された。

上記、検討項目に関してご意見やご提案がある方は、pf-sec@pfiqst.kek.jp (PF 秘書室)宛にお寄せいただきますようお願いいたします。

物構研談話会・コロキウム

日時：11/14 (木) 14:30～

題名：Molecular Analysis of NFAT/ICER Repressor Complexes and their Role in nTreg-cell mediated Suppression

講師：Dr. Josef Bodor (BIOCEV/Charles Univ.)

第115回物質構造科学研究所運営会議 議事次第

日時：令和元年10月7日(月)13:30～

場所：高エネルギー加速器研究機構 管理棟大会議室
議事

【1】第111回～第114回議事要録について

【2】所長報告

【3】審議

- (1) 教員公募(教授1名:放射光施設)
- (2) 教員公募(特別助教1名:放射光施設)
- (3) 教員公募(助教1名:放射光一)
- (4) 教員公募(特任助教1名:放射光二)
- (5) 教員公募(准教授1名:低速陽電子)
- (6) 物構研共同利用実験課題公募における条件の見直しについて
- (7) 教員の特定人事について(助教1名・特定人事:測定装置部門1)
- (8) 教員の特定人事について(助教1名・特定人事:測定装置部門2)
- (9) 教員の特定人事について(助教1名・特定人事:基盤技術部門)
- (10) 教員人事(助教1名:ミュオン)
- (11) 特定有期雇用職員の昇任人事について(物構研・特別教授:中性子)

【4】報告

- (1) 人事異動
- (2) 研究員の選考結果について
- (3) 2019年度後期放射光共同利用実験課題審査結果について(条件解除)
- (4) 2019年度(令和元年度)放射光共同利用実験課題審査結果について(P型)
- (5) 2019年度後期フォトンファクトリー研究会採択状況について
- (6) 協定等の締結について(国内機関関係)

【5】研究活動報告(資料配付のみ)

- (1) 物質構造科学研究所報告
- (2) 素粒子原子核研究所報告
- (3) 加速器研究施設報告
- (4) 共通基盤研究施設報告

※第112-114回は書面審議。